

## 論文要旨

(論文題名) リレーションシップバンキングの有効性に関する研究

慶應義塾大学大学院経営管理研究科

錦戸幸仁

(内容の要旨)

国内において地域経済の停滞や地域間格差の拡大が進んでいることを背景に、地域経済の再生や活性化が重要な政策課題となっており、中小企業金融・地域金融の円滑化が求められている。この地域金融の円滑化を図るための有効な手段になり得るとして、リレーションシップバンキングが重要視されている。

リレーションシップバンキングが地域経済において果たす役割の重要性については、広く認識されつつあるが、例えば、リレーションシップバンキングにおいて重要な要因と考えられる情報の非対称性などを、現実の金融実務におけるデータから見出すことは難しく、リレーションシップバンキングによりもたらされる影響の把握・測定は、困難である。これらの要因から、貸手と借手の行動がもたらす影響を明示的に示してきた分析は数少ないものとなっている。さらに先行研究の多くは欧米を対象にしたものであり、日本国内においては研究の絶対数が少ないという状況である。

このような背景から、本研究では、リレーションシップバンキングの利点および経済全体へ与える影響を明らかにすることを目的として分析を行う。具体的には、(1) 情報の非対称性などを考慮した場合のリレーションシップバンキングの便益に関する分析、(2) 地域金融市場に与える影響についての分析を行う。

分析手法としては、ミクロな挙動とマクロな挙動の関連性を分析する際に有効であり、近年注目を集めてきたエージェントベースモデルを採用した。当手法を通じ、貸手と借手の行動がもたらす影響を明示的に示した分析を行うことが可能となる。

本分析では、コンピュータ上に地域金融経済モデルを構築し、地域経済モデル上の実験を通じ、分析を行った。分析結果から、(1) リレーションシップバンキングは、資金の貸手と借手の間に存在する情報の非対称性を緩和し、貸手の不良債権比率を低下させうること、(2) 借手企業の規模が大きいほど資金供給の面で有効となることを見出すことができた。その一方で、(3) 借り手に関する情報を引き出す際に時間がかかるために、リレーションシップバンキングの資金供給の速度は緩やかとなる傾向にあること、(4) 貸手の競争激化によって市場に非効率性がもたらされる可能性があることも確認された。これらは、リレーションシップバンキングが地域経済にもたらす影響について興味深い結果を示すものとなっている。

今後の課題としては、より詳細な状況設定を行った分析などが挙げられる。